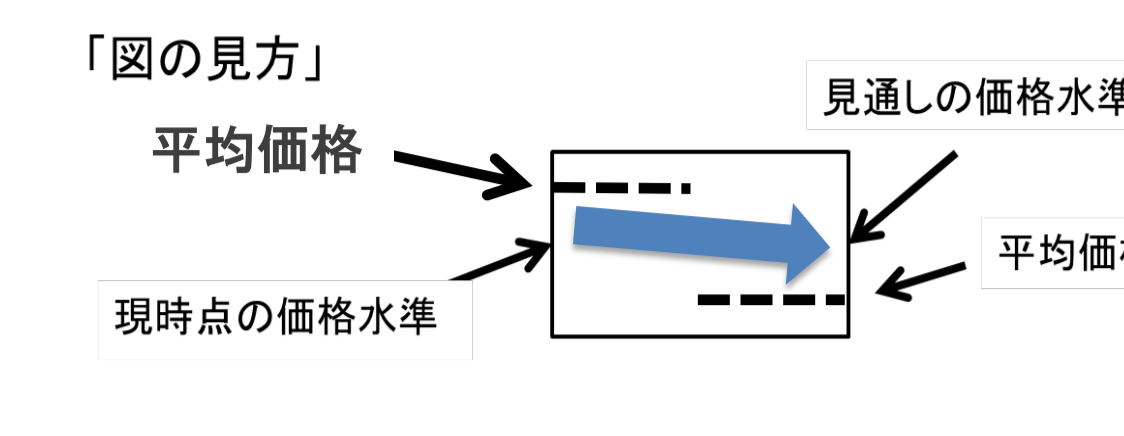


野菜の需給・価格動向レポート（平成30年1月29日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	12月の価格情報		1月の価格情報		1月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量（t）内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し					
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格								
葉菜類	キャベツ	72.93	165	96.86	227	173	・7.681t (100%)	愛知(51), 千葉(28)	→	愛知産は、降雨による収穫遅れで、現在一時的にやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みに回復する見込み。千葉産は、昨秋の天候不順や12月以降の低温により生育が緩慢となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
			(226%)		(234%)	(179%)						千葉産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、愛知産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	たまねぎ	83.77	84	83.77	90	92	・7.497t (114%)	北海道(92), 静岡(5)	→	北海道産は、貯蔵ものの中生品種の計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、12月の低温による肥大遅れがみられるものの、今後昨秋の台風後に播種分の出荷が、2月にずれ込むと見込まれることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
			(101%)		(107%)	(110%)						北海道産及び静岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	ねぎ	136.25	312	127.15	372	311	・2.431t (104%)	千葉(36), 埼玉(23), 茨城(17)	→	千葉産は、台風被害も回復し、正品率が上昇してきており、生育遅れは概ね解消されたことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、1月下旬の降雪による収穫遅れがでているものの、生育遅れは概ね解消されたことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、現在の主力である秋冬物の生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
			(229%)		(293%)	(244%)						千葉産、埼玉産及び茨城産の出荷は平年並みと見込まれるものの、鍋物等の季節需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	はくさい	40.32	104	64.18	127	128	・5.744t (105%)	茨城(87)	→	茨城産は、昨秋以降の、台風や断続的な低温等の天候不順により、全体的に小玉傾向となっており、年末需要による大玉優先出荷により箱数が伸びず、現在平年よりやや少なめの出荷は、引き続きやや少なめの見込み。		
			(258%)		(198%)	(200%)						茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	ほうれんそう	385.11	961	338.43	977	683	・878t (95%)	群馬(27), 茨城(26), 千葉(18)	→	群馬産及び茨城産は、ハウス作の生育は概ね順調であるものの、露地作は12月からの低温、干ばつ傾向の影響で生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の台風及び12月からの低温により生育遅れが発生し、1月の降雪の影響により出荷も後ろ倒しになると見込まれることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
			(249%)		(289%)	(202%)						群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	レタス	233.85	580	233.85	579	350	・1.799t (62%)	静岡(39), 香川(12), 千葉(9), 長崎(7)	→	静岡産及び千葉産は、昨秋以降の天候不順による定植遅れのほ場からの出荷も終了し、台風後に定植し順調に生育したものが出荷開始となることから、現在平年よりやや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。香川産は、昨秋以降の天候不順や12月の極端な低温により、生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
			(248%)		(248%)	(150%)						香川産の出荷は少なめと見込まれるものの、静岡産及び千葉産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
果菜類	きゅうり	370.98	502	370.98	392	439	・2.246t (100%)	宮崎(36), 高知(21), 千葉(20)	→	宮崎産は、12月からの低温の影響で生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、生育、品質ともに概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
			(135%)		(106%)	(118%)						高知産及び千葉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	トマト	349.23	503	349.23	403	347	・3.218t (129%)	熊本(38), 栃木(17), 愛知(16)	→	熊本産は、着果も良く、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、12月からの低温による着色不足がみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、ハウス作の生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
			(144%)		(115%)	(99%)						熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	なす	389.03	525	389.03	403	433	・734t (117%)	高知(67), 福岡(16)	→	高知産は、生育及び品質ともに概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、12月からの低温による肥大遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
			(135%)		(104%)	(111%)						福岡産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、高知産の出荷が平年並みと見込まれ、また、需要期でないことから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	ピーマン	378.83	616	578.80	602	706	・565t (105%)	宮崎(47), 高知(21), 鹿児島(17), 茨城(14)	→	宮崎産は、12月の低温による肥大遅れや年末年始の前倒し出荷の影響で、出荷の谷間が発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、生育が概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、1月の低温による着果減がみられることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、2月出荷分の着果が順調であることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。		
			(163%)		(104%)	(122%)						高知産及び茨城産の出荷は平年並み又は平年並みに回復と見込まれるものの、宮崎産及び鹿児島産の出荷が平年より少なめ又は少なめになると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	だいこん	67.55	167	79.03	204	189	・4.238t (73%)	神奈川(55), 千葉(38)	→	神奈川産は、生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の天候不順及び12月以降の低温により、生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
			(247%)		(258%)	(239%)						神奈川産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		76.48	161	80.47	188	172	・2.457t (82%)				長崎(32), 徳島(23), 和歌山(21)	→
		(211%)		(234%)	(213%)			千葉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、関東産の残量が少なめとの見込みから、平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。				
にんじん	105.86	135	111.16	127	139	・4.139t (93%)	千葉(88)	→	千葉産は、昨秋以降の天候不順により肥大不足で、やや細ものでの出荷となっているものの、概ね順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		(128%)		(114%)	(125%)						千葉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、関東産の残量が少なめとの見込みから、平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	104.49	169	109.97	154	173	・1.123t (76%)	鹿児島(48), 長崎(30)	→	千葉産は、昨秋以降の天候不順により肥大不足で、やや細ものでの出荷となっているものの、概ね順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
	(162%)		(140%)	(157%)						千葉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、関東産の残量が少なめとの見込みから、平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		



平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。



1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	12月の価格情報		1月の価格情報		1月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格						
いも類	さといも	220.97	311	228.85	270	284	・268t (99%)	埼玉(50), 千葉(29)	→	埼玉産は、昨秋の天候不順により肥大不足で小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、作付面積の減少に加え、定植時の干ばつ傾向により肥大が進まず、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。 北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、L及びMサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長崎産は、秋作の定植期の天候不良や寒波による肥大遅れにより、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 長崎産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		217.56	326	219.65	296	288	・118t (106%)			
	ばれいしょ	96.99	101	96.99	102	106	・4,315t (106%)	北海道(66), 長崎(28)	→	
		96.99	93	96.99	99	102	・1,508t (102%)	北海道(69), 長崎(22)		

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	12月の価格情報		1月の価格情報		1月中旬の東京都・大阪市場の入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し			
	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格						
洋菜類	ブロッコリー	321.75	774	307.40	651	545	・595t (91%)	愛知(32), 香川(21), 埼玉(18)	→	愛知産は、昨秋の低温で生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、11月からの低温に加えて、12月の寒波で生育が遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、12月の低温で生育が遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 愛知産、香川産及び埼玉産の出荷が引き続き平年よりやや少なめ又は少なめの出荷と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。 青森産は、太物率が高いものの、降雪による収穫遅れで、貯蔵ものの残量が少ないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷は平年並みと見込まれるものの、青森産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。 千葉産は、昨秋以降の天候不順により肥大不足となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		336.04	828	417.58	617	606	・146t (73%)			
根菜類	ごぼう	295.68	346	335.74	404	409	・190t (88%)	青森(55), 茨城(17)	→	
		182.97	294	188.58	206	228	・200t (109%)	茨城(57), 青森(12)		
	かぶ	124.64	237	152.30	281	215	・371t (92%)	千葉(90)	→	
132.52		270	137.79	294	286	・52t (51%)	徳島(44), 福岡(30)			

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - ごぼうの需給動向について -

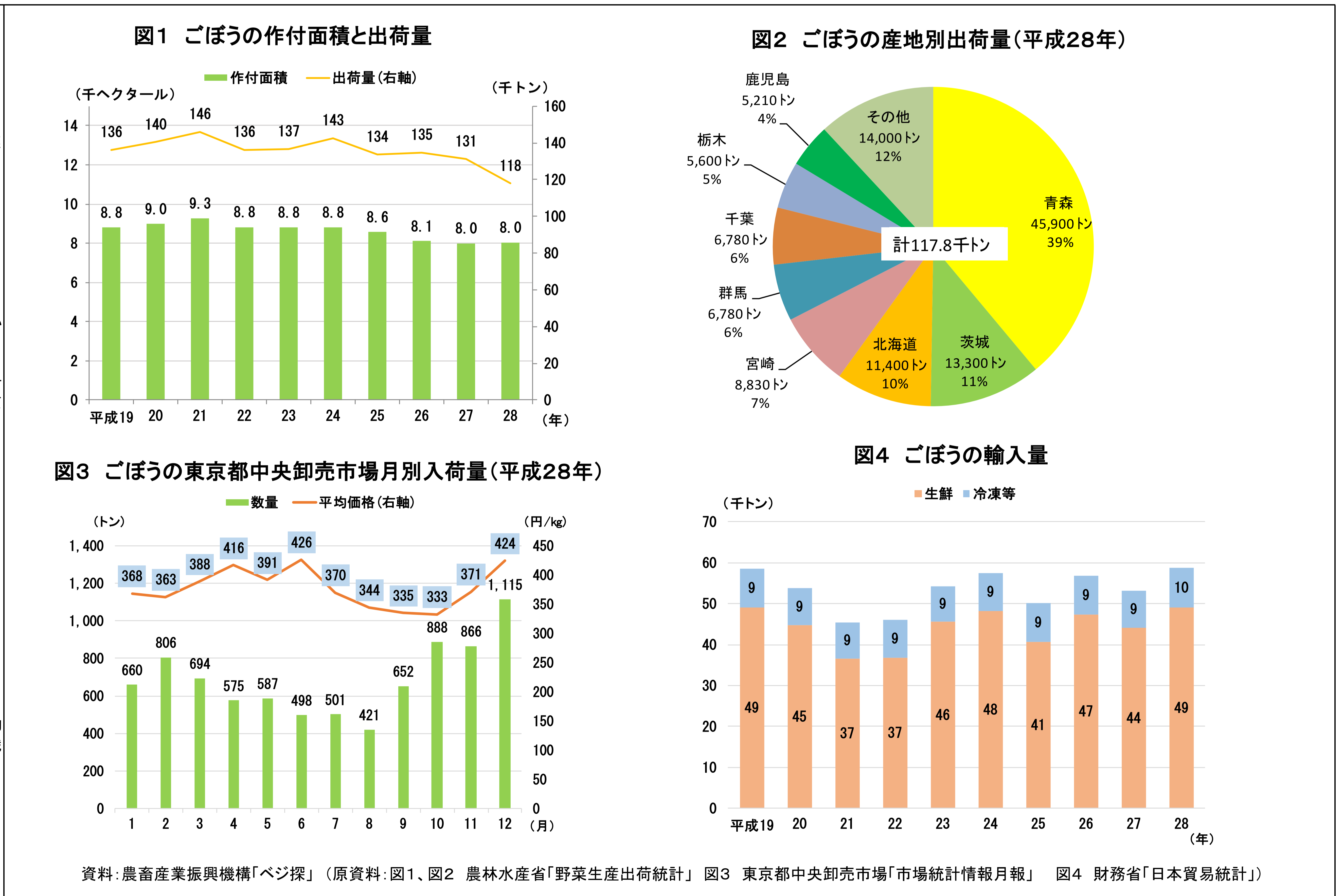
今回は秋から冬にかけて収穫が多いごぼうを紹介する。

**原産地と日本への渡来**  
ごぼうの原産地はユーラシア大陸北部、ヨーロッパ、中国といわれ、平安時代に中国から朝鮮半島経由で薬草として日本に渡ったといわれている。日本でも当初は主として薬用に使われていたようだが、平安中期には、宮廷の献立にごぼうの記述があるので、この頃から野菜として食べられていたようである。なお、ごぼうを食べる文化を持っているのは日本ぐらいである。

**主な種類と特徴**  
ごぼうは根が細くて長い種類と短い種類に分けられるが、一般の家庭で利用されるのは根が細くて長い“滝野川ごぼう”である。このほか、もっぱら葉を食べるための葉ごぼうに用いられる“白茎ごぼう”と呼ばれるものがある。長い間野菜として栽培し、日常的に食用にしているのは、世界でも日本ぐらいであったが、日本向けのごぼうを生産している中国や台湾でも、健康に良いということで食用にされることになった。現在ももっとも一般的な品種である滝野川ごぼうは、長さ1mにもなる一方、太さは3cm程度である。江戸初期から滝野川(現 東京都北区)付近で栽培されたのが名前の由来である。京料理で使われる“堀川ごぼう”はこのごぼうを越冬させ太くしたものである。

**生産状況等**  
「野菜生産出荷統計」によると平成21年に9300ヘクタールであったものの、平成27~28年は8000ヘクタールと減少傾向にある。出荷量は平成21年に14万6000トンとなったが平成28年は11万8000トンと減少した(図1)。平成28年の産地別出荷量では、最も多いのが青森県の4万5900トンで 全国の39%を占めている。2番目が茨城県の1万3300トン(同11%)、3番目が北海道の1万1400トン(同10%)と続く(図2)。東京都中央卸売市場における平成28年の入荷量は秋から冬にかけて多くなり、12月が1115トンと最も多くなっている(図3)。「日本貿易統計」によると、直近10年間で生鮮及び冷凍等合わせて、5万トン前後で推移しており、生鮮が全体の80%以上を占めている(図4)。

**栄養価と効用**  
中国では薬草として用いられてきたごぼうは、水分が少なく炭水化物が多い野菜で、その成分には多くの効用がある。野菜の中でも食物繊維の含有量はトップクラスで、便秘の解消、整腸、動脈硬化やガンの予防等の効果が期待できる。また、ごぼうに含まれる多糖類のイヌリンは腸内の糖分吸収を遅くし、血糖値の上昇を防ぐ働きがあり、糖尿病予防も期待できる。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable\_report.htmlに掲載しています。  
※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。